

「子どもたちと先生方の表情から感じる」教育長訪問



先日、前期の教育長訪問がありました。管理職との面談に加え、全クラスを授業参観いただきました。

1年生は、入学当初からスタートカリキュラムに取り組んでいて、ひらがなの「い」の学習と粘土で「い」をつくる活動を組み合わせていました。これまでに認定こども園でどんな活動を通して「育ってほしい姿」をめざしてこられたのか、またどんな生活リズムであったか、担任も直接、園の様子を参観してきたことを授業に活かそうと工夫しています。

2年生は1年生と生活科探検に行く『春みつけビンゴカード』を作っていました。縦・横・斜めにどんな生き物や草花を置くかで難易度が変わってきます。「この横向きは見つけやすいで」など、1年生の子が探検で見つけている様子を想像しながら集中して作っていました。

3年生は、体育「走」の学習。『スタートダッシュをきめてリボンをかそう』を学習課題にし、長めのリボンを腰につけて、このリボンを地面から浮かすには、手の振りや姿勢をどうすればいいか考えながら取り組んでいました。またリボンが浮いたかどうか自分で確認することはできませんので、グループの子が走る様子をタブレットで撮影し、浮いたかどうか確認していました。タブレットの効果的な使い方だなと感じました。

4年生は、「国語」第一場面と最後の第四場面を比較して違いをみつけていました。参観している



間にもペアトークで考えを伝え合ったり、発表に対してつぶやきがたくさんあったりと、学びに向かっている様子が観て取れました。指導者は、この比較から第二・三場面でどんなことがあったのか、また大きく変えたことは何かを、これからの授業で子どもたちと一緒に読み取ろうとしているんだなと思いました。



5年生は「算数」体積の学習。子どもたちが自分のめあてをもって授業を行う自由進度学習に取り組んでいました。教室横では 1 m^3 を実際に組み立てている子どもたちもいれば、教科書の問題を解いている子どもたちもいます。昨年度視察した愛知県の緒川小学校の校長先生は冒頭「学習の主体者は子どもである。」と長年、自由進度に取り組んできた学校の基本理念を語っていらっしゃいました。もちろんすべての授業を自由進度で行っているわけではなく全授業時数の2割程度行うことで、教師が進める授業においても子どもたちの主体性や積極性が発揮されているとのことでした。本校でもこうした授業を昨年度より高学年を中心に取り組み始めています。



6年生は、国語「谷川俊太郎さんの考える『生きる』を読み取ろう」子どもたちが読み取ったことをそれぞれに黒板にまとめていました。こうした子ども主体の授業を創るには、一人ひとりが学びに向かおうとするのはもちろん、何でも言い合える仲間づくりが大切と考えています。

あすなろ・ひまわり学級の学びを含め、子どもたちがいきいきとした表情と授業を楽しんでいる姿が、参観後の話の中心になりました。

私からは学校教育目標「ふるさと竹田で、人とかかわりながらじりつ（自律・自立）する児童の育成」を基に、竹田小最後の一年を地域保護者と皆様とともに子どもたちの成長に努めていくことについても話をさせて頂き、有意義な意見交換となりました。